

第9回



入選作品原稿

令和7年7月
(一社) 家の光協会 読書・食農・記事活用促進部

■ ■ 総 評 ■ ■

今回の家活グランプリでは、『家の光』だけではなく『ちゃぐりん』『地上』を活かした活動、他部署との連携を進めた取り組みなど、多彩な事例が寄せられました。

最優秀賞の濱村美紀さん（JAしまね）は、地区のブロック単位で教育文化セミナーを開催し、他部門との連携もはかった結果、『家の光』『ちゃぐりん』の増部を実現し、金融・共済の契約にも成果をあげました。優秀賞の桂田満智子さん（JAあきた白神）は、これまで経験がなかった部署への異動のなかで、『ちゃぐりん』を積極的に活用し、新規の定期購読者、助け合い組織参加者の増加につなげました。同じく優秀賞の露木美里さん（JAあつぎ）は、半年間女性部活動がなかった状態から、『家の光』のチラシ作成等に取り組み、自らも講師になって幅広い活動を展開し、クッキングフェスタの復活も実現しました。

JA教育文化活動は、家の光三誌を積極的に活用しながら、組合員と役職員、地域の人たちとのつながりを創ることで、JAにとって重要課題である組織基盤の強化をはかることをめざしています。さまざまな実践事例に学びながら、家活の輪がますます広がることを期待しています。

審査委員長 摂南大学 教授 北川 太一

【第9回「家活グランプリ」審査委員】

審査委員長 摂南大学 教授 北川 太一

審査委員 家の光専門講師 佐久間 幸子

家の光協会 代表理事専務 木下 春雄

※肩書きは審査会当時・敬称略

* 目 次 *

【最優秀賞】

- 「地域をつなぐ『家の光』の力～」JAしまね出雲女性部の挑戦」
島根県 JAしまね 濱村 美紀さん・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

【優 秀 賞】

- 「きっかけは…家活！」
秋田県 JAあきた白神 桂田 真智子さん・・・・・・・・・・・・ 5
- 「まさに教本！困った時の『家の光』」
神奈川県 JAあつぎ 露木 美里さん・・・・・・・・・・・・・・ 7

【佳 作】

- 「次世代へつながる活動を目指して！」
愛知県 JAあいち中央 野口 よしみさん・・・・・・・・・・・・ 9
- 「教育文化活動を通じた組織の活性化と JAのファンづくりについて」
福岡県 JA福岡市 山口 幸一郎さん・・・・・・・・・・・・・・ 11

※所属は応募当時のものです。

「地域をつなぐ『家の光』の力 ～ J Aしまね出雲女性部の挑戦」

島根県 J Aしまね 出雲地区本部 企画総務部 ふれあい福祉課
濱村 美紀

J Aしまね出雲女性部は職員と共に、地域社会における J A の役割を強化し、組合員教育の重要性を広めることを目指して、さまざまな活動を展開しています。特に、『家の光』を活用した取り組みは、地域の女性たちの生活を豊かにし、J A への関心を高めるための重要な手段となっています。

J Aしまね女性部では、『家の光』を「活動の教科書」と位置づけ、出雲女性部でも各支部に具体的な増部目標を設定しています。この取り組みは、地域の女性たちが自らの生活をより豊かにするための知識や技術を身につけることを目的としています。今年度は女性部と支店職員が協力し、地域全体での取り組みを強化するため、5 ブロックごとに女性部員と職員が 106 名集まり、教育文化セミナーを開催しました。このセミナーでは、「なぜ『家の光』を普及するのか」というテーマで学び、参加者がその意義を深く理解する機会として行っています。

女性部の具体的な活動としては、料理や手芸、窓口でのディスプレイ、来店感謝デーでのプレゼントなど、多岐にわたる記事活用を実施しています。例えば、料理教室では、「家の光 12 月号」の記事を活用したおせち料理を地元の食材を使って紹介し、参加者が実際に料理を作ることで、食の大切さや地域の食材への理解を深めています。これにより、地域の組合員に対して『家の光』の魅力を効果的に伝えることができました。

また、出雲女性部では J Aしまねとして行っている「おもてなしプロジェクト」において、生活部ラピタや自然部ガソリンスタンドとの連携を強化し、地域の皆様に「おもてなし」活動を行っています。この取り組みにより、地域の人々に J A の存在感を高めるだけでなく、相互の信頼関係を築くことにも寄与しています。さらに、女性部員と職員の「連携が強化されたことにより」、金融共済の契約に繋がる成果が 20 件以上ありました。

毎年 8 月に開催される『家の光』活用研修会では、約 100 名の参加者を迎え、学習と手芸を行っています。この研修会では、『家の光』を通じて得られる知識や技術を共有し、地域の女性たちが互いに交流する場を提供しています。参加者は、手芸の技術を学ぶだけでなく、他の参加者との交流を通じて新たな友人を作ることができる貴重な機会となっています。令和 6 年度には、『家の光』の学習とともに『ちゃぐりん』の手芸を実施しました。参加者が楽しみながら記事を再確認する機会を

設けることで、地域の女性たちの意識を高め、JAへの関心を促進しています。

この研修会では、実際に手を動かして作品を作る楽しさを体験することができません。さらに、研修会の終了後には、参加者全員で作った作品を展示したり、「おもてなしプロジェクト」にてプレゼントしたり、地域の人々に活動を知ってもらう機会を設けています。このような活動を通じて、地域のつながりを深め、JAの活動に対する理解を促進しています。

昨年9月には、『ちゃぐりん』8月号の特集「野菜もりもりバーベキュー」を活用し、フレミズを中心に親子向けの交流イベントを開催しました。このイベントは、JA購買店舗ラピタ内にある調理施設“縁（えにし）”で行われ、親子合わせて20名の参加がありました。肉や野菜を串に刺し、屋上ビアガーデン「ラピタ屋上星空ガーデン」にて炭火焼きを楽しみました。親子で楽しく料理をしながら、参加者同士の交流を促進し、フレミズ部員5名の増加を図ることができました。

このイベントは、親子での共同作業を通じて、食育の重要性を伝えることを目的としています。参加者は、地元の新鮮な野菜を使ったバーベキューを楽しむことで、地域の農産物への理解を深め、食の大切さを再認識することができます。また、イベントの中では、フレミズ部員が「ちゃぐりん4月号別冊付録 野菜と果物のクイズブック」を活用したクイズを出し、農業や食に関する知識を提供し、参加者が質問をする時間も設けました。これにより、地域の人々がJAに対する信頼感を高め、今後の活動に参加したいという意欲を持つようになることを目指しています。

令和6年度はこうした取り組みの影響もあり、女性部の声掛けでの『家の光』の新規は115部以上となり、『ちゃぐりん』の購読部数は24部増加しました。

次年度も女性部事務局と渉外職員との情報共有を強化し、『家の光』の普及、共済等の訪問活動など連携を図る取り組みも行って行きたいと考えています。

このように、『家の光』を中心にしたこれらの活動は、地域社会におけるJAの存在感を高めるための重要な取り組みです。女性部の活動を通じて、組合員教育や地域貢献を実現し、さらに多くの人々にJAの役割や価値を伝えることが私たちの目指すところです。これからも『家の光』と共に挑戦を続け、地域の豊かな未来のために努力を重ねてまいります。

「きっかけは…家活！」

秋田県 J A あきた白神 営農部 営農企画課

桂田 真智子

平成15年に入組して以来、ずっと金融共済の担当をしていました。窓口や渉外担当などを経験し、L Aを9年。そんな私が、生活指導の担当になったのは令和4年4月。本店勤務となり経済部という初めての部署に。人事異動は何度かありましたが、これほどの変化は初めてでした。

これまでは遠くから女性部の活動を見ていましたが、企画や段取りなど初めての仕事は想像以上に大変。それでもL A時代に知り合った女性部員の方も多く、料理や家族のことなど、おしゃべりするのが大好きな私は楽しく日々の業務にあたっています。

そんな中、頼りとなったのが『家の光』です。記事を読んで、手芸作品を作ったり、学習会を行ったり。長年続いてきた『家の光』ブランドにヒントをもらい運営を助けてもらいました。

2年目の令和5年には、個人的にも印象に残ることがありました。

当時、小2だった娘が、『ちゃぐりん』8月号をヒントに、「あまいトマトをさがそう」という自由研究を提出。先生の目にとまり、「能代山本理科研究発表会」に推薦され、発表することに。娘は普段吃音があり、人前で話すことが苦手でしたが、先生と何度も練習しました。この経験が自信につながったようで、『ちゃぐりん』にも先生にも、とても感謝しています。

同じ年には「図書予約組合」に入り、本店の待ち受けに設置。広報誌でもPRし、地域住民へ本の貸し出しを始め、人気を集めています。

担当3年目となる令和6年、機構改革により、生活指導業務は経済部から営農部営農企画課へと移管。一緒に働く職員も2倍に増えたものの、「生活指導って何をやっているの?」、「『家の光』って何?」という雰囲気、不安になったのも事実です。

6月には、健康寿命100歳プロジェクト「ノルディックウォーキング体験会」で、『家の光』を配布。ランチタイムには9月号の別冊付録「脳活のススメ」をもとに、「人生100年時代の脳活ライフ」を提案すると、思った以上に好評を博しました。

このとき、『家の光』の企画内容と会合の目的がマッチしていると、プレゼント配布の効果が倍増するということ、身をもって学びました。

7月には、淳城西小学校の5年生とともにジャガイモの収穫・試食体験。これは、女性部が行っている食育活動。「夏休みの自由研究のヒントになれば…」と、『ちゃぐりん』を寄贈。生徒や先生の口コミで、今年は新規定期購読にもつながりました。

他職員にも協力してもらい、営農企画課としても一致団結できました。

同じ7月には「助け合い合同研修会」を開催。2グループある助け合い組織の一

つ「能代いきいき会」は高齢により会員数が減り、2名の会員という存続の危機に。「どうにか人を集められないか」と、悩んで思いついたのは『家の光』6月号の「オニヤンマのお守り」でした。「研修会で手芸もできる！」という触れ込みで集客をしたところ、18人が集まりました。手や指、頭を使う「オニヤンマのお守り」作りは大好評！それをきっかけに会員も18人と増え、「コーヒーサロン」や「オーガニック料理講習会」、「助けあいセミナーへの参加」など、活動は今まで以上に活発になりました。

8月には「ちゃぐりんフェスタ」を開催。初めての企画だったので、人が集まらなかったら…と不安ばかりでしたが、結果は24人の参加！工作教室に加え、いつも頼りにしている女性部の母さんにも助けられ、地元野菜を使った「簡単クッキング」も実施。子どもたちからは「楽しかった。また参加したい。」と大好評。『ちゃぐりん』が大好きな娘が友達を誘って参加してくれたことも、喜びの一つでした。

12月には、恒例の「冬期講座」。今年は12月号を活用し、「幸せなお金を使う方講座」を開催。さらに、地域住民も対象とした「お正月フラワーアレンジ講習会」でも、参加記念品に『家の光』12月号を配布！若い参加者もいたので、藤井恵さんの「おつまみおせち」や、「お正月の寄せ植え」を紹介しました。こういったイベントでは必ず、読みどころや自分の好きなページ、私なりの活用法などを紹介するようにしています。

この一年で感じたことは、部署のメンバーの結びつきが強まったこと。「生活指導？家の光？」と、？マークばかりだった営農企画課のメンバーが、食育活動やちゃぐりんフェスタの準備に協力していく中で、新たな「やりがい」を感じてくれたのだと思います。女性部講座の会場準備なども課内の男性職員が率先して動いてくれて、女性部員から「ありがとう」という言葉をかけられることも増えています。

「家活」のメリットは、職場の結束を強めることだと思います。営農企画課としてスタートしたこの一年は、これまで以上に部署のメンバーシップが強まりました。この動きを、本店さらには支店へと広げていきたいと思っています。

そして今年は家の光100周年。家の光ダンスコンテストにもレッツチャレンジ！！

「まさに教本！困った時の『家の光』」

神奈川県 J A あつぎ 清川支所 経済課

露木 美里

J A あつぎでは、8 地区の支所に一人ずつ生活指導員が配属されています。私が着任した清川支所は生活指導員の席が空席で、半年間女性部活動がない状態でした。さらに、コロナ禍で女性部活動は減り、部員の人数も減少。どうにか盛り上げていかなければ、でも一体どんな活動をしたらいいのだろう。以前実施した講習会を再企画するも、参加者は集まらず困り果てていました。そんな時、「『家の光』に載っていたグラスサンドアート、部会ではできそうになくて。清川地区の女性部活動としてできないかな」と女性部員から相談がありました。

入職してから購読を始めた『家の光』は、さっと目を通して家に持ち帰るだけでしたが、生活指導員となり、よく読むようになっていました。なるほど、『家の光』の記事を参考に講習会を企画すれば良いのか！「グラスサンドアート、やりましょう！」とさっそく企画しました。部員に話を聞くと、『家の光』掲載記事は簡単な手芸などは取り組みやすいようですが、材料が多いものや工具を使う、作業工程が多いものは、準備する部員や講師の部員の負担が大きく、部会ではなかなか取り組むことができないようでした。女性部の企画として行えば、材料もまとめて買うことができ、部員の負担も減らすことができます。講師は私が務めることになりましたが、事前に試作し、当日も参加者全員が素敵なグラスサンドアートを作ることができました。令和4年度はグラスサンドアートのほかにみつろうラップを清川地区女性部全体の活動として企画・実施。SDGs を謳ったこの講習会は多くの方が参加しました。コロナ禍によって顔を合わせていなかった部員も多く、部員相互の交流も深めることができました。

令和5年度は、手まりストラップ作りを企画しました。ビーズを使った細かい作業は難しく、部員それぞれが『家の光』誌面を見ながら作業を進めるも、私一人で教えるのには限界がありました。そこへ手芸を得意とする女性部員が「私も教えられるよ、手伝うね」と声をかけてくれたほか、作業に余裕ができた女性部員が隣の人に教えるなど、自主的に行動してくださり、全員が無事に完成させることができました。12月には、ウオールプランツ作りを企画し、こちらも多くの部員が参加しました。さらに、当日出席できなかった部員から「部会で人数を集めるから教えてほしい」とのお声をいただき、私が講師を務め、2つの部会で実施しました。1年以上が経過した今でも「観葉植物を植え替えてまだ飾っている」と言われるほど好評です。

仕事にも慣れてきた令和6年度は、盆踊りや農業まつり、『家の光』クッキングフェスタ、発表会など、すべてのイベントが完全復活した年となりました。私は経済窓口も兼務しているため、今までになく忙しい年となり、毎年目標にしていた「月1回、女性部活動を実施」も難しいのではないかと困っていました。こんなときは『家の光』に助けてもらおう！と、スマホストラップ作りから始まり、オニヤンマや米袋バッグ、お正月の寄せ植え作りと、『家の光』を参考にした講習会を4回開きました。他の地区の生活指導員との情報交換をしたり、女性部員のアレンジ方法や工夫を参考にしたりと、協力をいただきながら一年を乗り切ることができました。

J Aあつぎ女性部では、令和4年度より『家の光』記事を活用した活動を実施した際、助成金を支出しています。支所で実施する講習会はもちろん、部会での手芸や料理講習会も対象です。この取り組みは大変好評で、令和6年度は34部会292人が対象となり、積極的な記事活用を進めるとともに、未購読者への普及につながっています。

清川支所では、『家の光』年間購読者を対象とした「『家の光』クイズ」を毎月実施しています。『家の光』ホームページに掲載されている読みどころと『家の光』クイズを印刷し、組織回覧で配付。全問正解者にはJ A取扱商品をお渡ししています。私が着任する前から実施しているため、毎月提出している方がいるほど定着化しています。「隅々まで読んでいる」「今回のクイズ難しかったよ」と窓口や景品を渡す際に声をかけていただくこともあります。『家の光』を読んでもらえる、クイズを楽しんでもらう、J A取扱商品のPRにもなる、一石三鳥の取り組みとなっています。

「『家の光』は開けてもない」「時間がなくて読めない」今まで耳にしてきた声です。しかし、最近は「この記事読んだ？またみんなでできないかな？」「部会でこれを作る予定！支所に展示してほしい」と自主的に女性部活動を進めてくれるようになりました。私が着任して来た当時には想像できなかった会話です。『家の光』が届いたらまず開いて読む！チラシを作成しすぐに募集！このスピード感を心掛け、これからも『家の光』を教本として、女性部員とともに魅力的な女性部活動を行っていきたいと思います。

「次世代へつながる活動を目指して！」

愛知県 J A あいち中央 碧南南部ブロック 碧南みなみ支店

野口 よしみ

4月の人事異動で9年の時を経て、再び碧南南部ブロックへ異動となりました。当時、第一線で活動されていた女性組織の方々が、今も現役で頑張っている事にとっても安心した反面、次世代への移行ができず今後の活動に不安が募ります。そんな中、前年までの「対話から繋ぐ」「対話運動をその先に繋げるアクティブメンバーシップ」と「碧海そだち」を基軸とした『食・農・健康』を活動テーマとし、支店運営方針を意識しながら、①イキイキレディース・フレミズの活性化 ②次世代へ地元農産物をPRするを目標にしました。

昨年度サークル化された家活グループ「オニオンズ」は、記事活用を中心に2ヶ月に1度程度で開催しています。次回の内容を決める時は、得意な方に講師をお願いしています。当然、私自身が講師になることもあり、いつ起きるかわからない災害に備え、ポリ袋を使用したお湯ポチャレシピでごはん、スープ、蒸しパン、混ぜるだけでのサラダなどの防災料理にしました。お湯に入れるだけで、ご飯ができることに驚かれ、洗い物も少なく時短にもなると大絶賛。洋裁の得意な方には、着物やワイシャツのリメイクでかつぼう着作りを教えてください、。家の光よりバージョンアップされたとってもおしゃれなかつぼう着ができました。

料理の時は地産地消を意識し、会員が作っている野菜を持ち寄ってもらったりしています。キュウリをふんだんに使ったサンドウィッチやトマトたっぷりのスープなど、猛暑の影響で野菜が高騰している中でも、旬のものをいただけることは最高の贅沢で、心と体の健康に繋がります。家活グループというのに、家の光を購読者が半数だという事実には愕然とし、全員に購読をしてもらいたいと、講習会の都度、推進をしました。結果3名が購読してくれました。

フレミズの森では、碧海育ちを意識した取り組みをしました。『ペットボトルピザ作り』は、夏休み親子企画として開催。子供だけで、あおいパークで買い物をしてもらい、その野菜を使ってピザ作りをしました。

「キッシュ作り」は、ブロッコリーやトマト農家さんからのミニトマトをたくさん使ってPRしました。

がやがやワクワク会のメンバーは、女性総代、支店運営委員、ときいろカレッジのOGなど、ほぼ正組合員で、日中は農作業をされています。今年度は2回開催し、1回目は、ランチを兼ねて昼間の開催にしましたが、半数しか参加してもらえませんでした。2回目は農作業を終えたあと、午後7時からの開催としました。すると、仕事を終えて疲れているにも関わらず、全員が参加してくれました。

「支店まつり」「夏の感謝祭」「冬の感謝祭」などの催事の内容を考えていただきました。

支店まつりでは、支店長の想いに寄り添っていただきながら、地元の野菜でカレーライスのみそ汁に決定すると、「ナスとオクラとかぼちゃを素揚げにしてトッピング

ングしたら？」「ひき肉にすれば、どのお皿にも均等に入るからいいんじゃない」
「漬け物は大根を酢漬けにして…」と、次から次へと意見が出てきます。結果、夏野菜盛り盛りのこだわりカレーのできあがり。支店まつり当日は、足元の悪い中でも多くの方が来場され、美味しくできたこだわりカレーは、あっという間になくなりました。

食農教育としては、営農センター、人参部会の協力の下、管内の小学校3年生に人参の播種から収穫までを行っています。さらに、前浜ひまわりグループによる人参の講習会をしています。へきなん美人をもっと知ってもらうため、DVD観賞やクイズで学んだあと、人参ジュースで乾杯し、ゼリー、カラムーチョあえ、ジュースの搾りかすのシーチキン和えを試食。人参を余すところなく使い切り、子供たちにも大好評で、ある男の子に「昨日までは嫌いだったけど、今日好きになりました！」と言ってもらい、まさに人参好きを育んだ瞬間でした。特に人気はジュースを搾った残りかすのシーチキン和えですが、かすなんて言い方は生産者さんに叱られます。『美人の素』という素敵なネーミングがあるんです。

以上の取組みにより、オニオンズの家の光購読者は5名から8名に。エコキャップ回収運動では、がやワクメンバーやイキイキレディースの協力で前年対比243%の回収ができ、みごと優勝！先日開催された女性交流会で表彰されました。また、フレミズの森のLINE登録者は7名から28名となり、登録率65%になりました。イキイキレディースの活性化に繋がり、講習会を通じて『碧海育ち』や支店で米の販売をしていることもPRもできたと思います。

しかし、次世代へ繋げるには、高齢化になる現役の方が元気なうちに世代交代をする必要があります、そのためにも、フレミズから次世代のリーダーを育成し、活動の中心となってもらえるきっかけ作りが今後の課題となります。また、今年度、思うように進まなかった職員の組織活動への参加と意識付けをし、「くらしの拠点」として組合員、利用者から頼りにされ、もっと愛される支店を目指して活動をしていきたいと思っています。

「教育文化活動を通じた組織の活性化と JAのファンづくりについて」

福岡県 JA福岡市 食農福祉課

山口 幸一郎

JAは組合員と家族、地域に住む人々の願いを、組合員と私たち職員の「協働活動」によって実現することを目的としています。しかし昨今、高齢化や世代交代などにより組合員の多様化が進み「協働」の意識が薄れつつあります。そのような中JA福岡市では、家の光三誌を活用した教育文化活動を通じて、JAと組合員・地域とのつながりを強化し、JAのファンづくりとJA事業への参加・参画を促す仕掛けづくりを行っています。

まず「教育・学習活動」のひとつとして、ジョワカレッジ（フレミ大学）を毎年開催しています。これはフレッシュミズを対象に、JAの経営理念や事業の内容、女性組織の活性化等について学び、JA福岡市の食農ティーチャーより家の光レシピを活用した伝統食の料理教室を体験したり、介護予防体操などに取り組むボランティア組織との交流を行っています。この活動を通じJAと組織活動についての知見を深めてもらい、将来のJA組織の担い手育成を図っています。

続いて「組織活性化および部員拡大方策」として、各支店にて様々な女性部サークル活動を行っています。令和6年12月末現在で72のサークルがあり、ダンス・舞踊・詩吟・コーラス・大正琴・カラオケ・絵手紙・フラワーアレンジメント・書道・パソコン教室など、とても多彩に活動しています。この活動を通じ、気の合う仲間同士で活動を楽しむとともに、年に1回、活動の成果を発表する場として「サークル活動発表会」を開催しています。管内の市民ホール等を貸し切り、ダンスやコーラスなどのステージ発表と、書道やフラワーアレンジなどのロビー展示を行って、日頃の活動の成果を発表するもので、毎回総勢500名近くの参加を頂いています。

ほかにも、子どもたちに食べ物大切さ・自然の大切さ・協力することの大切さを伝えることを目的に「ちゃぐりんキッズフェスタ」を開催しています。令和6年度は6月に「バケツ稲づくりと夏野菜料理教室」、8月に「アスパラガス収穫体験とオリジナルピザづくり」を開催しました。開催に際してはちゃぐりんの記事内容などを抜粋し、子どもたちが楽しみながら、食べ物と農業についてどちらも体験してもらえるようプログラムを組みました。お米という身近な作物を育て方や、畑がまるでジャングルのようにになっているアスパラガス収穫、生産者との交流など、子どもたちは目一杯驚いて、楽しんでいました。料理教室では食材選びや直売所での買い物体験、調理を自分たちで行うことで、仲間と一緒に作業することの大事さや、料理をすることの楽しさを学んでもらえました。

令和5年度より、JAや組織活動、家の光の良さについて多くの方々に知って頂くため「家活ディスプレイコンテスト」の取り組みを開始しました。女性組織と支店

職員が協働でディスプレイを制作し、家の光のおすすめ記事や女性組織活動の紹介などのコーナーを作りました。活動に参加した方からは、参加の思い出を懐かしく感じて話が弾み、参加していない方からは次回は絶対参加してみたい！とのお話を頂きました。また組織活動や家の光を知らない方々には、ディスプレイを通じて組織活動の楽しさや、家の光の面白さ・素晴らしさを紹介し、組織の活性化と部員の拡大、家の光の部数伸長を図りました。令和6年度も継続して実施し、女性組織と協力しながら、今年度は全支店で取組むことができました。各支店のディスプレイは写真とともに報告書が提出され、2月末の家の光の目標部数達成状況も踏まえて、担当常務・部長・課長に審査を行って頂き、優秀な成績を収めた支店には、4月の女性部総会（女性のつどい）の壇上にて、該当支店の女性部長を表彰しています。

また家の光の普及推進に取り組む中で、現在、高齢化等により女性部員の人数は年々減少しており、活用・推進は継続するものの、今後女性組織だけを中心に部数を伸ばすのは困難な状況です。そこで本年度よりJAと取引関係にある企業への普及推進を始めました。関係企業への推進は部数を伸長させつつ、個人とは異なり安定的で継続した購読につなげることが期待できます。本店においては、JAと密に取り引き頂いている業者に推進し、支店においては店舗近隣の企業や事務所、病院などに推進し、待合室の備え付け冊子として設置頂く事をご提案することで、通常の本店では取り扱っていない家の光を一般のお客様にも見て頂く機会とでき、いっそうのPRにつなげられます。

様々な活動を通じ、組織活動の魅力や家の光の良さ、またJA事業の周知、食と農への理解促進を図り、JAのファンが拡大し、組織が活性化するとともにJA事業利用も伸長し、さらなる活動へとつなげていくことができると考えます。JA福岡市では今度も継続して、組合員と役職員が共通の理念をもち、地域を舞台にした活動を進めて参ります。